

基調講演

るエリアを今に復活させるべく、新・摂津を作り上げてみてはどうでしょうか。

摂津という地域でくると、大変面白い文化人が活躍されていますし、知識基盤社会、科学技術を最先端にしながら、それを支える広い教養の世界が浮かび上がってきます。大学も大阪大学や神戸大学など、相当水準の高い大学が入ってきます。さらに劇場やホール、多くの美術・博物館もこのエリア内にあります。これらを統一したイメージにまとめれば、パリやアテネ、あるいは東京に匹敵する大都市イメージができあがり、ここにはたくさんの人々が集まり、訪れる人も自ずと増えるでしょう。

また、大学間の相互協力や交通網の整備など、やるべきことがたくさん考えられます。なかでも、もっとも大事なことは伊丹空港の拡充です。私は伊丹空港を二十四時間国際線が乗り入れられる空港として再開発すべきだと考えます。もちろん住民の方々の迷惑を最小限に抑え、費用をつぎ込まなければなりません、今ならできる。摂津の国が蘇るために、やってみる値打ちがあります。そういうことを考えれば摂津の国も夢ではないのではないか。繰り返しますが、『ふるさと一番』的な文化ももちろん大切です。それも生かしながら、一方でより大きなメトロポリス文化を築いていくべきであると私は願っています。

企業メセナ協議会の専務理事として企業の文化活動を支援する加藤恒夫氏。基調講演では、一昨年から続く景気悪化に伴う社会の疲弊や歪みに負けず、再び活気ある地域社会を取り戻すための緊急提言と、文化力をもって新たな地域再生に取り組む行動原則が示された。

「文化力を高め、 地域を豊かに」



加藤恒夫氏

企業メセナ協議会 専務理事

1969年、大日本印刷株式会社入社。長年にわたり文化事業を担当し、グラフィックギャラリー、現代版画の美術館の企画運営、フランスの美術館に関わるメゾン・ド・ミュゼ・ド・フランス、ルーブル美術館との共同実験事業などを手がける。企業メセナ協議会では長年幹事を務め、2005年4月から現職。